国立病院機構宮城病院 地域医療連携室だより

第6号

かっせんはら100ばんち

＜宮城病院基本理念＞良い医療を安全に、心を込めて

新年度のご挨拶

日頃は地域医療連携室にご協力を賜りまして、誠にありがとうございます。
年度の初めにあたりご挨拶申し上げます。

令和2年度宮城病院は、山元町地域包括支援センター業務委託や訪問リハビリテーション開始など幾つかの事業を展開していきます。
これら事業を介して、より地域に密着した病院として、通常の入院外来診療以外の面からも地域医療に貢献する所存です。
一方、新型コロナウイルス感染拡大により、これまでのように顔と顔をつき合せ密な関係を築くということが困難な状況となりました。しかしながら連携を図る重要性は変わり有りませんので、安全かつ合理的な方策を考えつつ、皆様方との信頼できる関係をこれまで通り継続していきたいと思います。
このような状況ではありますが、夏にはMRガイド下集束超音波治療を東北地方で初めて宮城病院で開始します。その際には地域医療連携室から治療の詳細や患者様の紹介などご連絡申し上げることが多くなると思われます。最新の治療方法ですが、それ故あまり知られていないことも事実でありご了承ください。
本年度も皆様方の貴重なご意見を賜りながら、より良い地域医療連携を構築できればと考えておりますので宜しくお願い申し上げます。

地域医療連携室長　安藤肇史

新設！！ 宮城病院「総合診療外科」
総合診療外科部長　八巻　孝之

【著者職歴】
東北大学第一外科（現総合外科）出身。肝臓研究班に所属、2000年医学博士。文部教官助手を経て、仙台医療圏の科長・部長職を歴任。2016年3月、生まれ故郷の宮城県伊具郡丸森町国保丸森病院副院長に就任。地域医療創生に邁進。昨秋の東日本台風で大規模災害を経験後、2020年1月から国立病院機構宮城病院総合診療外科部長職。

はじめまして。
私は、昨年12月まで、生まれ故郷の丸森町にある国保丸森病院の副院長でした。昨秋の東日本台風による激甚災害を経験したのち、本年1月宮城病院に異動しました。山元町南部にある宮城病院は昨年、日中戦争たけなわの昭和14年創立以来、80周年を迎えました。病院一帯は日本古代史に一石を投じる貴重な合戦原（かっせんはら）遺跡が存在し、古墳時代中期末から後期の古墳群や古代の窯業・製鉄遺跡などが数多く点在する歴史的な地区でもあります。

山元町・隣の亘理町との間で、平成27年に相互協力協定を締結して5年目を迎える宮城病院には、地域医療の推進、地域包括ケアの推進、健康づくりの推進、その他の連携・協力など、更なる地域医療への貢献が強く求められています。昨年12月には病院と地域をつなぐ訪問看護ステーションが院内に開設され、今年4月院内に地域包括ケアセンターの開設が予定されています。昨今の医療情勢において総合診療は地域医療の要であることが理解され、病院総合診療医の存在、その存在の重要性が認識されつつあります。医療と介護をシームレスに繋ぐ事業がこの地域でも推進される中、宮城病院の外科は、2019.1月から「総合診療外科」と名称を変えて正式に基本診療科の一つに加わりました。

私は、今後さらに求められるだろう地域医療の精神をもって日々診療しております。国立病院機構の141病院における初めての新設科かもしれません。地域になぜ外科系の総合診療科が必要なのか、その診療の特徴は何かを説明できる職員は私の周囲に未だ少ないようです。外科はこれまで、臓器別・縦断的な専門診療を提供してきた歴史が長く、私自身も消化器外科の中で肝胆膵領域の外科診療に長く従事していました。平成26年に生まれ故郷の公立病院に赴任し、僻地医療と向き合う3年10か月間、目前の高齢住民が常に求めていた医療とは全人的医療に他ならなかったと感じています。縦割り医療の弊害は、より良い成果を求めて次々と医療機関を変える、ドクターショッピングでした。国道沿線の医療機関で収まらない住民は、仙台医療圏まで足を運んでいるのが実情です。新設の背景として、高齢化が進んでいるわが国では複数の疾病を合併している患者さんが増加しています。一人の患者さんが心身の不調や悩みを幾つも抱えており、従来の診療が複雑化しています。患者さんの判断で適切な診療科を受診することが困難なケースも増えてきました。地域医療においては、家族構成や地域の特色、仕事などの社会的情報を踏まえた包括的診療が求められています。つまり、患者さんが一つの診療科に収まらないのです。ある専門家に異常はありませんと言われても、強い不安を覚える高齢者が増えています。

総合診療外科は、専門分野を持ちつつ、基本領域の系統的知識に基づいた裾野の広い外科系の総合診療力を、外科・整形外科・皮膚科・泌尿器科・消化器科などの複数診療域において発揮し、よく遭遇する疾患（common disease）を中心とした診療を行います。また、患者さんの身近にいて、患者さんが地域生活を送るうえでの社会的で多様な健康上のニーズ、例えばロコモ・サルコペニア・フレイル対策や骨粗鬆症の検診と診療、訪問診療、介護・障害者福祉支援、地域警察協力などを含めて、多様に対応しながら社会的医療者として使命を発揮していきたいと考えています。特に、居宅や施設からの救急要請と初期対応、訪問診療等に関わる診療力の提供が重要と考えています。また、先進医療や特殊医療に精通し、特定臓器に対する専門的治療が必要とされる場合は各領域の専門医を適切に紹介することも肝要です。今後より深く、この地域に存在する医療が社会とシームレスにつながれるよう、お役に立てれば誠に幸甚の至りです。決して「よろづ外科」と誤解のないよう、総合診療外科の特徴を地域に浸透させたいと心に願っております。地域の皆様や医師会、病院職員の方々には、今後大変お世話になることが多々あるかと存じます。どうか宜しくお願い申し上げます。ご相談をお待ちしております。詳しくは、宮城病院HP（https://miyagi.hosp.go.jp/）内の、「外来のご案内」をクリックして、「診療科のご案内」から総合診療外科の対象疾患と診療内容、診療の特色、外来診療日程等をご覧ください。

新任医師 (脳神経内科)赴任のご挨拶

神経内科医師
小野　紘彦

4月より宮城病院脳神経内科に赴任いたしました小野紘彦と申します。
秋田県出身で2010年に東北大学を卒業し、山形での初期研修を経て、東北大学脳神経内科に入局しました。東北大学病院や仙台市立病院で後期研修を行い、東北大学大学院に入学しました。大学院では神経免疫の研究を4年間行いました。こちらに来る前は、郡山の総合南東北病院に勤めておりました。
　宮城病院では、病棟管理に加えて、月曜日に再来、火曜日に新患外来を担当しております。東北地方を転々としながら各地域の医療を学んできました。こちらでも地域のことを覚えていきながら、皆様のお役に少しでも立てるように努めて参りますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

ｱﾏﾋﾞｴﾐﾔﾍﾞﾘｰ

「訪問リハビリをはじめました！！」

令和2年4月より「訪問看護ステーションかけはし」からの「訪問リハビリテーション」が開始となりました。
専門の理学療法士、作業療法士が直接ご自宅に訪問し、より自分らしい生活を送っていただけるよう、身の回りの動作練習や、寝たきり予防、ご家族様への介護・リハビリ方法指導、趣味活動、住宅改修や福祉用具のアドバイスをさせていただきます。
たとえば、「もう少し楽にトイレ動作ができないかなぁ？」、「あまり動かないから、体力が落ちないか心配･･･」、「少しでも外に出たいな」など、ご利用者様やご家族様の不安、問題に対して、対応していきます。訓練内容は病院で行っていたような、関節可動域訓練や歩行練習を行ったり、実際生活されるご自宅での日常生活動作の練習を中心に行ったりと、内容は様々です。皆様が『笑顔』になれるように、在宅での生活を全力で支援していきますので宜しくお願い致します。

リハビリテーション科
主任作業療法士　角　知弘

万能だし《ヘルしお》～水出しによる「だし」取り～

「へるしお」とは・・・
ヘル→減
しお→塩

今後、万能だしを使った
レシピを掲載していく予定です！
栄養管理室前にレシピを掲示しており
ますので、来院の際はお手に取って
みてください★

水1Lに対するだしの分量
- 花かつお　20g
- いわし煮干し　10g
- だし昆布　5g

★麦茶ポットに材料と水道水を入れ、24時間程度、冷蔵庫で置くだけで簡単にだしがとれます。
(だしがでたら素材は取り出します。)
★お茶だしパックに材料を入れると取り出しやすくなります。
★冷蔵で3日程度、保存できます。

あなたの職場教えてください

南b病棟
（地域包括ケア病棟）

山内早苗師長

地域包括ケア病棟の特徴を簡単に教えてください

急性期病棟で治療を終えた患者さんが、退院に向けて準備を進める病棟です。
ご本人の体調に合わせて、自宅等へ退院先を決めて安心して退院できるよう
お手伝いしています。入院期間は制度上、上限が60日以内と決まっています。

どんな患者さんの入院が多いですか？

脳卒中や、腰椎圧迫骨折、大腿骨頸部骨折などのリハビリ目的の入院や、
肺炎治療後の退院までの療養目的の患者さんが多いです。
患者さんの背景としては、お一人暮らしの方が多くなってきています。

患者さんが自宅に退院するにあたって大事にしている事、気を付けている事は何ですか？

入院加療の必要な期間で、患者さんひとり一人の状態に合わせて、ご自宅で生活する
ための食事の仕方や移動の工夫などをご家族や本人と一緒に考え、それを実際に出来
るようになって頂くことです。
それが、一般的にはリハビリという事ですが、患者さんは、退院後も継続してリハビリを
続けていくことになるので、その方法を覚えてお帰り頂きたいと思っております。

地域包括ケア病棟のズバリ自慢は？

患者さん、ご家族の希望する形の退院を目指し、患者さん方がこれからの生活を具体的に
イメージできるよう、患者さん方の目線に立って考えます。
また、ご家族が退院された後お困りにならないよう、介護ケアに関してパンフレットを作成し、
より細やかなところまで覚えて頂くよう工夫しています。

編集後記

新年度が始まりました！
日頃より、医療機関、関係機関の皆様には大変お世話になっております。
今年度、当院では地域包括支援センターの業務委託、訪問リハビリテーションの開始など、新たな取り組みを通して、地域の皆様と様々な視点から連携を図らせていただきたいと思っております。
今年度から、ヘルしおレシピや各職場紹介を毎号お届けしようと考えておりますので、次回もお楽しみに★

地域医療連携室　木村

〒989-2202
亘理郡山元町高瀬字合戦原100番地
TEL(0223)37-1131(代表)
http://miyagi.hosp.go.jp/

【発行・編集】
独立行政法人国立病院機構宮城病院
地域医療連携室